

と申に流矢より其の腹に當り死にさしもの猶抱かれ
叶ふまじきと思われ馬の上より鎧脱捨腹のき切て失せ
玉ふ時に生年二十三歳天正十七年己丑四月十三日と
云ふ事を見そ近習十人を見中を押込一人
も残さず討取り悪臣取義貞の首を備前守討取
義光公実檢にささぐ赤巾森悦限りかく備前守業
内にて域中に入玉ふ域中より尾形一族女房を煙の中
に入死せしむり落行くも有る可れありと云ふあり
叔草薙備前守を仮の城代とて佐々木興膳佐々木
越前守に成され本領跡より鯉延の城に移され同

浦老名安景をさしめ連判の事清く言出され本領に加
増され中にも安景より悪臣形の跡式下ささぐ佐
られこれ安景所詮の趣意有るなりとも私義代より主
を討取りより本意に小目きしは諸人の難苦を見るに
あつたは以味方中より殊に翺子もこれなく幾程の栄花
を保つて半そと様の不義を企てしや只以て殿の中厚
君に取暇をとり殿より上を水義光公に威あせられ
草薙備前守を仮の城代とて同月廿日は歸陣あり
去程に武友義貞陽平を勇將取り同並提の爲に加茂浦
に一寺を建立有る圓融院とて寺領を寄附し玉ふ